

令和 4（2022）年 2 月市長臨時記者会見の概要と質疑応答

令和 4（2022）年 2 月 28 日（月曜日）
午後 5 時 30 分～5 時 56 分
柏崎市役所 4-3・4-4 会議室

1 発表事項

「社会福祉法人 柏崎刈羽ミニコロニー松波の里」における新型コロナウイルス感染症の集団感染の概要について

（主管：福祉課）

市長：県は、本日の柏崎市の新型コロナウイルス感染症感染者が 28 人と発表しました。28 人という数字は、今年 1 月 21 日に発表した 26 人を超え、1 日の発表人数としては最多です。

今回の 28 人のうち、24 人が社会福祉法人柏崎刈羽ミニコロニー松波の里に入所されている方でした。柏崎市が柏崎刈羽ミニコロニーと一緒に会見する経緯をお話しします。現在柏崎刈羽ミニコロニーが運営するさぎなみ学園は、平成 24（2012）年まで市が直営で運営していました。以来、社会福祉法人柏崎刈羽ミニコロニーとは人事も含めて、柏崎市と深い関係を維持してきたという歴史的な経過も含めて一緒に会見に臨むこととしました。

松波の里は、厚生労働省から出されている障害福祉サービス施設のための感染対応マニュアルや業務継続ガイドラインに加えて、独自に新型コロナウイルス感染症発症時対応マニュアルを令和 2 年 7 月に作られました。その後も数次にわたり改定し、新型コロナウイルス感染症に対応するべくできる限りの努力をしてきていただいたところです。

本日このような発表をするに当たり、理事長、所長はじめ職員の方々は忸怩たる思いがあると拝察します。これから理事長にお話しいただき、その後、感染の概要を私からお話しします。

柏崎市が柏崎刈羽ミニコロニー中村理事長：2 月 24 日から 2 月 26 日にかけて、当法人が運営する障害者支援施設松波の里において、入所者 26 人、職員 5 人、計 31 人の新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生しました。施設における感染予防対策は、国や県の指導に基づき、当施設独自の感染者発生時の対応マニュアルや業務継続のガイドラインを策定して、順次作り直しをして、職員の日常生活の行動も含めて一生懸命実施や指導をしてきました。その甲斐もあって、これまでは入所者や職員の感染は発生していませんでしたが、本日結果としてこのような事態をとったことに対し、理事長として痛恨の極みです。入所者の皆さ

まにご家族の皆さまに心からお詫びを申し上げます。そして、市民の皆さま、関係機関の皆さまにも多大なるご心配をおかけしていることにつきまして、心よりお詫びを申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

また、今も懸命に働いてくれている職員、そのご家族に対して大きな心労とご負重を掛けていることに対して、法人の理事長として本当に忍びなく、お詫びの気持ちでいっぱいです。

感染症の状況については配布資料のとおりですが、一刻も早い終息に向けて、保健所をはじめ行政機関、医療機関の皆さまのご協力を仰ぎながら法人全体で対処していきたいと思っています。なお、報道機関の皆さまにおかれましては、入所者の皆さま、職員の個人情報・人権にもご配慮いただき、併せて本施設が障がい者の施設であるということにも鑑み、適切な対応をいただきますようお願い申し上げます。

市長：柏崎刈羽ミニコロニー松波の里は、障害者総合支援法に基づき設置されている障害者支援施設です。介助、援助を要し、自宅での生活が困難な方、主に知的障害者をお預かりし、介護・訓練・支援をさせていただいているところです。入所定員は50人で、現在入所されている方は42人です。うち1人は1月から長期入院中でいらっしゃいません。そして、短期入所者が1人です。職員数は、理事長を含め28人です。

感染の概要は、入所者26人、うち男性22人、女性4人、職員は5人です。経過は、2月17日に施設内で3回目ワクチン接種を実施したところ、翌日から入所者24人に発熱などのワクチン接種の副反応と思われる症状が出現しました。念のため医療機関を受診した方もいらっしゃいましたが、ドクターはワクチン接種の副反応と判断し、PCR検査は実施しませんでした。2月20日に入所者のAさんが発熱し、抗原検査を行い陰性。職員のA、Bが21日、23日に倦怠感または発熱などの症状が出てきたということです。初めて陽性者が確認されたのは24日で、入所者Aさんが抗原検査をして陽性が判明し、入所者Bさんも陽性が確認されました。抗原検査でしたので、PCR検査も受けていただきました。25日には職員A、Bそれぞれ陽性が確認されました。25日からは柏崎保健所、新潟県福祉保健部障害福祉課とも連絡を取りながら、25日には柏崎保健所、柏崎総合医療センターの指導の下、施設内のゾーニングを実施しました。26日には新潟県福祉保健部障害福祉課に対して職員の応援要請をしました。これは3月1日からとなっていますが、県からご配慮いただき、新潟県知的障害者福祉協会から27日に1人、28日に1人、応援職員が派遣されています。明日までには計6人の応援職員から来ていただけることになっています。入所者、職員ともに症状は軽いと承知してい

ます。

2 質疑応答

記者：症状に関して、無症状と軽症状の方の内訳を伺いたい。

理事長：高熱やひどい倦怠感の方ではなく、微熱や体のだるい方がいます。症状がない方もいます。昨日から熱が出始めている女性が1人います。

記者：入院などされている方はおらず、皆さん施設の中にいるのか。

危機管理監：1人の方が軽症ですが、基礎疾患があるため保健所にご配慮いただき念のため入院しています。

記者：職員A、Bは25日のいつごろまで勤務していたのか。症状が出ていたのに仕事をしてきたのか。

理事長：ワクチン接種後ということもあったので、少し様子に変なことに対しては抗原検査をするようにしています。最初に症状が出た職員はワクチン接種翌日でしたので、副反応だろうということで、抗原検査をしながら仕事をしていました。2人目の職員の際は発熱がありましたので、PCR検査をする時には勤務していません。

福祉保健部長：最初に陽性になった職員Aさんは21日に夜勤明けになっていますが、その時には検査で陰性でした。職員Bさんは夜勤明けの23日夕方に発熱しました。最終勤務日は、Aさんが21日、Bさんは23日です。

記者：理事長は心からお詫びとおっしゃったが、職員の対応に問題がなければ、オミクロン株でここまで感染が広がっている中、お詫びと言わなくてもよいのではないか。

市長：そう言っていただけると理事長も若干ながらも心が休まるかと思います。ご本人の責任感からこのように申し上げたところです。

記者：感染対策の見直しもされたとのことだが、感染が急拡大した中でどのように対策されたのか。

理事長：新しい変異株への対応は厚生労働省からも指導がありました。年が明けてから何回かにわたって、もし感染が起こった場合どうすればいいのか、自宅待機や私生活での県外との往来なども含めて、対応マニュアル以外にもいろいろな対応のための改定をしてきました。また、変異株の感染力が非常に高いということで、私生活にも非常に不自由をかけていると思いますが、常に検査しながら、施設長が体調を把握して、看護師の判断が仰げるような状態を継続していました。体制自体には大きな間違いはないと思っていますが、どこかに穴があったのかもしれませんが。

記者：どのようなことで一番ご苦労されているか。

理事長：入所者の皆さんの健康管理をいかにきちんとできるかということです。感染が発生した時に症状を見分けながら、状況を判断して、医療との連携をどのようにしていくか、職員も含めて知見がなければいけません。また、職員の確保が厳しい状況にあり、職員が陽性になっているので近くの職場から応援にきていただいています。県からも応援に来ていただくのですが、この人的な確保が非常に大事だと思っています。

記者：入所者 42 人は高齢者と考えてよいか。年齢は何歳台から何歳台か。

福祉保健部長：20 歳台から 70 歳台までです。

記者：今回感染された方は何歳台から何歳台か。

福祉保健部長：感染された方も 20 歳台から 70 歳台までです。

記者：感染された方は 3 回目の接種が済んでいるが、感染されたことをどう考えるか。

福祉保健部長：ワクチン接種は 17 日に実施していますが、すぐに効果が出るわけではなく、一定期間たたないと効果は出ません。今回は接種後すぐでしたので、副反応と見分けがつかなかったところです。

市長：今回陽性者が発生した施設は障がいのある方の施設です。日頃からこういった施設で

働く人材が見つからない中で、日々努力していただいています。加えて、コロナ禍で順次マニュアルも改定するなどの対応をしていただいています。この辺りを含めてご勘案いただきたいと思っています。